

「地質相談所」の記録

利光 誠一¹・酒井 彰²・下川 浩一³

1. はじめに

産総研地質調査総合センター（GSJ）では、地質・地球科学に関する技術相談や質問を受ける窓口として、GSJのホームページに「地質相談お問い合わせ窓口」を設けている。ここには、日々地質に関するいろいろな相談・質問が電子メール、時に電話、ファックス、手紙などで寄せられている。現在、「地質相談窓口」という名称で所内外の地質相談に対応しているが、元々は「地質相談所」の名称で外部への相談対応をしていた。本稿では地質調査所の時代から慣れ親しんだ地質相談の窓口「地質相談所」について振り返り、その歴史を記録に留めることを目的として執筆した。

2. 「地質相談所」設立の経緯

酒井(2011)でも言及されているが、1949年9月15日に当時の工業技術庁地質調査所の機構改定で「地質相談所」が新設され、1950年度以降の地質調査所年報に「地質相談所」として機構図に記述されてきた(地質調査所百年史編集委員会編、1982)。地質相談所の所長は、歴代、研究部の主任研究官が兼務し、その業務の内容は、「地質及び地下資源の調査指導に関する業務」、「地質及び地下資源に関する相談・指導」、「地質・地下資源に関する相談・指導と海外との連絡」など、その時々的情勢によりわずかではあるが、変わってきている(第1表)。1998年には、工業技術院の各研究所における産学官連携推進センターの発足に伴

第1表 地質相談所の組織(名称)、業務内容、歴代所長の変遷。

年度	機構上の名称	業務内容(年報の組織に記載)	所長(兼務)**
1950-51	地質相談所	地質及び地下資源の調査の指導に関する業務を行う	春城清之助
1952-59		地質及び地下資源に関する相談・指導	
1960-62		地質・地下資源に関する相談・指導と海外との連絡	松井 寛
1963-64			
1965-66		地質及び地下資源調査・研究の指導	井島信五郎
1967-68		地質及び地下資源の指導・相談	
1969			
1970-71		地質及び地下資源調査の指導・相談	佐藤 茂
1972-73			
1974		地質及び地下資源調査の指導・相談	河井正虎
1975-83			
1984		地質及び地下資源の調査の指導に関する業務	山田正春
1985-87			
1988			
1989-90			
1991-92		地質及び地下資源の調査の指導	岸本文男
1993-97			
1998-2000	産学官連携推進センター(地質相談所)*	地質調査所の所掌業務に関わる技術に関する指導、相談、研究関連情報の提供その他技術交流の推進	石田正夫
2001-02	成果普及部門地質標本館(地質相談所)*	資源・地質災害等の重点研究分野における産業界、学会、地方自治体等との交流・連携を強化推進するとともに、地学に関する内外からの相談に積極的に応える地質相談を行う。	吉井守正
2003-04			酒井 彰
2005-09	広報部地質標本館(地質相談所)*	地質情報の利用促進のため、地質相談所を窓口として、外部機関や市民からの問い合わせに積極的に応えるとともに、団体見学者の要望に応じて、地域地質の解説を行う。	
2010-14	地質標本館(地質相談所)*		下川浩一

* ()内は地質調査所及び産総研年報掲載の窓口通称;産総研における地質標本館の帰属の変遷は利光(2022)参照

**1960年度から地質調査所年報の組織の項に課長以上の氏名を記載(地質相談所長は研究部の主任研究官が兼務;1998年度以降は相談担当)

1 産総研 地質調査総合センター連携推進室
 2 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター
 3 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

キーワード：地質調査所、地質調査総合センター、技術相談、相談窓口、地質相談所、地質調査所産学官連携推進センター、地質標本館

い、地質調査所では地質相談所から振り替えてこの組織が作られた(湯浅, 2002). 地質相談所の名前は機構図から消えたが、地質相談業務は産学官連携推進センターの中に組み込まれて、地質調査所年報においては地質相談の窓口として「地質相談所」の名称が使用された. その業務内容は「地質調査所の所掌業務に関わる技術に関する指導, 相談, 研究関連情報, その他技術交流の推進」となっている. 研究部の主任研究官が産学官連携推進センター副センター長を併任して地質相談業務を担当した.

3. 産総研における位置付け

2001年4月からは、産総研の発足に伴い、地質の技術相談窓口として成果普及部門地質標本館に“地質相談所”が置かれた. なお、産総研の組織等の設計段階では、技術相談は産学官連携部門に一括されるという話があったが、相談の対応時に図書室や地形図デポ室にある資料を必要とすることが多く、また地質標本館での来客対応となることも多いことから従来通り第7事業所(旧地質調査所の建物群で現在の中央事業所7群)に窓口を置いて対応することとなった(豊, 2001). 相談対応にはシニアリサーチャー(のちに総括主幹に職名変更)があたり、2005年4月～2010年3月までは広報部地質標本館副館長が担当した. 2010年4月から人事異動に伴い地質標本館の総括主幹の担当となった. 2010年10月の機構改編後も産総研の事業推進組織としての地質標本館で地質相談の窓口としての“地質相談所”が継続され、2011年5月からは相談業務担当の総括主幹が副館長に異動となり引き続き地質相談業務を担当した.

産総研年報では、地質相談業務(“地質相談所”)の成果は2001～2003年の産総研発足時から産学官連携部門の中に掲載された. 第2期中期計画で産総研の広報機能の強化がうたわれ、2005年度の年報で、地質分野の事業計画の中に「地質情報の利用促進のため、地質相談所を窓口として、外部機関や市民からの問い合わせに積極的に応えとともに、団体見学者の要望に応じて、地域地質の解説を行う」ことが示された. これは、第3期中期計画の2014年度計画まで踏襲された. このように産総研年報では、2014年度まで一貫して地質相談の窓口として「地質相談所」の名称が使われている.

4. 「地質相談所」の認知状況について

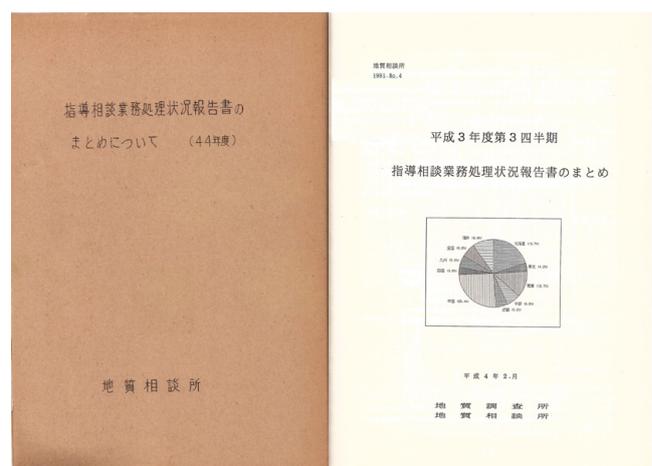
地質調査所時代から地質相談所の名前は対外的な窓口と

して定着していたため、産総研になってもその名称を通称として継続して使用した(豊, 2002; 酒井, 2011; 利光, 2022). このことで、企業やマスコミ、個人の間でよく認知されていた. しかし、2015年度の機構改編で所掌する部署が地質標本館から地質調査総合センター研究戦略部研究企画室国内連携グループに移った際に、産総研の機構図になかったことから、「地質相談窓口」に一括された.

5. 地質相談所のアウトリーチ活動

地質相談所では、所外の個人や機関などからの地質関連の相談に対して、設立当初は電話や面談、手紙などで対応してきた. 通信手段が発達するにつれ、ファックスも追加されたが、インターネットの急速な普及に伴い、産総研になる少し前から、電子メールが主流となった. 設置当初から地質に関する様々な相談・質問に対応してきたが、1970年から1999年までの相談業務については「指導相談業務報告書」として集計されてGSJの図書室に配架されている(第1図, 第2表). 1990年代以降は、相談内容の集計資料を広報誌(地質ニュース, GSJ ニュースレター, GSJ 地質ニュースなど)でも時折紹介している(第2表).

一方、地質相談業務を外から見えるようにするため、「地質ニュース」誌に相談と対応の一部をQ&A的に紹介したこともあった(第2表). 加えて、GSJのホームページに地質相談に関する簡易的なQ&Aを掲載していた時期もあった. また、相談内容の中でユニークなものを“こぼれ話”的に紹



第1図 「指導相談業務報告書のまとめ」表紙の変遷. 初期の報告書(左図は1969年度)は、手書きのガリ版刷りで作成されていた. 1972年度の報告書から活字を用いた表紙が採用されたが、報告書そのものはまだ手書きのガリ版刷りであった. 1979年度の報告書から全ページ活字となった. 1991年度から表紙に集計データが掲載され(右図)、1992年度から色付きの表紙となった.

第2表 地質相談所の報告類等一覧。

<p>図書室に配架している報告資料「地質相談処理状況報告書」(指導相談業務報告書のまとめ)</p> <p>地質相談所編(1970-76)指導相談業務処理状況報告書 昭和44~50年度. 地質調査所地質相談所.</p> <p>地質調査所地質相談所編(1976-83)指導相談業務処理状況報告書 昭和51~57年度. 地質調査所地質相談所.</p> <p>地質調査所地質相談所編(1983-90)指導相談業務処理状況報告書 昭和58~平成元年度. 地質調査所地質相談所.</p> <p>地質調査所地質相談所編(1990-95)指導相談業務処理状況報告書 平成2~6年度. 地質調査所地質相談所.</p> <p>地質調査所地質相談所編(1995-99)指導相談業務処理状況報告書 平成7~11年度. 地質調査所地質相談所.</p> <p>GSJ広報誌に掲載された地質相談報告</p> <p>1991年度</p> <p>地質相談所(1992)地質相談所から. 地質ニュース, no.455, 75.</p> <p>1992年度</p> <p>地質相談所(1993)地質相談所から見た1992年度. 地質ニュース, no.466, 62-73.</p> <p>1992年度~1995年度</p> <p>佐藤岱生(1996)12. 地質相談所-なんでも, お気軽に-. 地質ニュース, no.500, 40-41.</p> <p>2001年度~2004年度</p> <p>酒井 彰(2005)地質相談あれこれ. 地質ニュース, no.623, 60-65.</p> <p>2010年度</p> <p>下川浩一・酒井 彰(2011)地質相談所だより-平成22年度前半(2010年4月~9月)の地質相談報告-. GSJニュースレター, no.76, 6-7.</p> <p>2012年度</p> <p>下川浩一(2013)2012年度第1四半期(4月~6月)の地質相談報告. GSJ地質ニュース, 2, 28-29.</p> <p>下川浩一(2013)2012年度第2四半期(7月~9月)の地質相談報告. GSJ地質ニュース, 2, 63-64.</p> <p>下川浩一(2013)2012年度第3四半期(10月~12月)の地質相談報告. GSJ地質ニュース, 2, 126-127.</p> <p>下川浩一(2013)2012年度第4四半期(2013年1月~3月)及び2012年度の地質相談報告. GSJ地質ニュース, 2, 190-192.</p> <p>2013年度</p> <p>下川浩一(2014)2013年度第1四半期(4月~6月)の地質相談報告. GSJ地質ニュース, 3, 124.</p> <p>下川浩一(2014)2013年度第2四半期(7月~9月)の地質相談報告. GSJ地質ニュース, 3, 159-160.</p> <p>下川浩一(2014)2013年度第3四半期(10月~12月)の地質相談報告. GSJ地質ニュース, 3, 253-254.</p> <p>下川浩一(2014)2013年度第4四半期(2014年1月~3月)及び2013年度全体の地質相談報告. GSJ地質ニュース, 3, 319-321.</p> <p>2014年度</p> <p>下川浩一(2015)2014年度第1四半期(4月~6月)地質相談報告. GSJ地質ニュース, 4, 94-95.</p> <p>下川浩一(2015)2014年度第2四半期(7月~9月)地質相談報告. GSJ地質ニュース, 4, 127-128.</p> <p>下川浩一(2015)2014年度第3四半期(10月~12月)地質相談報告. GSJ地質ニュース, 4, 158-159.</p> <p>産総研地質調査総合センター研究戦略部研究企画室国内連携グループ(2015)2014年度第4四半期(2015年1月-3月)及び2014年度全体の地質相談報告. GSJ地質ニュース, 4, 359-362.</p> <p>地質相談の広報的記事</p> <p>Q&Aなど</p> <p>地質相談所 宮本技官(1963)読者の質問箱. 地質ニュース, no.108, 45.</p> <p>地質相談所(1963)読者の質問箱. 地質ニュース, no.109, 25.</p> <p>工業用水課 小西技官(1963)読者の質問箱. 地質ニュース, no.110, 45.</p> <p>無名著者(1963)読者の質問箱. 地質ニュース, no.111, 49.</p> <p>福田 理(1964)読者の質問箱. 地質ニュース, no.114, 44.</p> <p>無名著者(1999)くらしと地質Q&A(1). 地質ニュース, no.539, 54.</p> <p>無名著者(1999)くらしと地質Q&A(2). 地質ニュース, no.540, 69.</p> <p>無名著者(2000)くらしと地質Q&A(3). 地質ニュース, no.548, 55.</p> <p>その他</p> <p>吉井守正(1994)地質相談所こぼれ話, 1994-その背景に世相がみえる. 地質ニュース, no.476, 54-57.</p> <p>佐藤岱生(1997)地質相談所から見たつくば隕石. 地質ニュース, no.509, 23-27.</p>
--



第2図 地質相談所が参加したイベントなど。GSJと日本地質学会主催の「地質情報展 2005 きょうと」に出展した地質相談ブースの様子(写真左:GSJホームページから転載)と地質標本館で毎夏開催しているイベント「地球何でも相談」に参加している様子(写真右;2014年)。いずれも、持ち込まれた岩石などの標本鑑定や日頃の疑問に答えている。

介した記事もある(第2表の吉井, 1994;佐藤, 1997;酒井, 2005)。

産総研発足の2001年度から“地質相談所”が地質標本館の所掌となったことから、地質標本館で開催してきた夏休みのイベント「地球何でも相談」やGSJの主要なイベントである地質情報展(「地質標本館がやってきた!」あるいは「移動地質標本館」など)にも協力した(高橋ほか, 2010;利光ほか, 2010など)。産総研になってその第3期中期計画期間までは、子供から大人まで、また所外にも活動の場が広がった時期である(第2図)。

6. さいごに

60年余りにわたって親しまれてきた「地質相談所」という名称の使用は2015年3月で終了したが、GSJでは地質相談には引き続き対応しており、現在も多くの方に関する相談が「地質相談お問い合わせ窓口」に寄せられている(川畑ほか, 2024)。

地質相談への対応には、在職されたGSJの全職員に協力を頂いてきました。これまで「地質相談所」の相談対応に関わっていただいた多くの皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。

文 献

豊 遙秋 (2001) 地質標本館. 地質ニュース, no. 559, 18.

豊 遙秋 (2002) 成果普及部門 地質標本館. 「地質調査

所から地質調査総合センターへ」編集委員会編, 地質調査所から地質調査総合センターへ, 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター, 69-71.

地質調査所百年史編集委員会編(1982)地質調査所百年史. 通商産業省工業技術院地質調査所創立100周年記念協賛会, 162p.

川畑史子・斎藤 眞・小松原純子 (2024) 2023年度地質相談のまとめ. GSJ地質ニュース, 10, 263-268.

酒井 彰(2011)地質相談業務をふりかえって. GSJニュースレター, no. 77, 7-8.

高橋裕平・吉田清香・宮内 渉・長森英明・利光誠一・中島和敏・川畑 晶・宮崎純一・藤原智晴・百目鬼洋平・中島 礼・古川竜太・松島喜雄 (2010) 地質情報展2010とやま—海・山ありて富める大地—. GSJニュースレター, no. 73, 3-4.

利光誠一・吉田清香・下川浩一・青木正博・澤田結基・兼子紗知・古谷美智明・尾上 亨・辻野 匠・兼子尚知・川辺禎久・中島 礼・中澤 努・村上浩康 (2010) 地質標本館開館30周年と夏の行事. GSJニュースレター, no. 72, 5-6.

湯浅真人 (2002) 産学官連携推進センター. 「地質調査所から地質調査総合センターへ」編集委員会編, 地質調査所から地質調査総合センターへ, 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター, 41-43.

TOSHIMITSU Seiichi, SAKAI Akira and SHIMOKAWA Koichi (2025) Records of the "Geological Consulting Office", GSJ.

(受付: 2024年10月11日)